

## あなたはどのタイプ？

今までのあなたの受診タイプにより、これからのがん検診受診の方法をお知らせします。

START

今まで、がん検診を受けたことがありますか？

それは会社のがん検診ですか？

YES

YES

NO

それは区市町村のがん検診ですか？

YES

NO

NO

がん検診の  
受診習慣がある方

これからは、区市町村でがん検診を受診してください。

今までも区市町村で  
がん検診を  
受診していた方

これからも、継続して  
受診してください。

人間ドックなどで  
受診されていた方

区市町村でもがん検診が受診できます。

今まではあまり  
がん検診を  
受けていない方

これからは区市町村のがん検診を受けてください。



お住まいの地域によって、  
検診の実施時期や申込方法等が異なります  
一度、お住まいの区市町村のがん検診について調べてみましょう！

● 各区市町村のがん検診関連情報はこちら

東京都のがん検診ポータルサイト「受けよう！がん検診」  
区市町村のがん検診担当部署

<https://www.hokeniryo1.metro.tokyo.lg.jp/kensui/gan/contact/>



検診費用の  
一部または全額を  
区市町村が負担しています

※自己負担額は、区市町村や検診内容によって異なります。



／ がん検診について、もっと知りたい方はこちら ／

受けよう！がん検診  
PDF版



東京都 がん検診パンフレット 🔍 検索

女性の健康を支援するポータルサイト  
TOKYO #女子けんこう部



女子けんこう部 🔍 検索



東京都

退職後

も人生は続くから

# がん検診 も続けよう！

退職後はお住まいの区市町村で受けられます



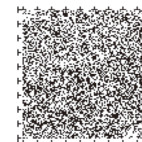
東京都  
がん検診啓発キャラクター  
モシカモくん

日本人の2人に1人になるという“がん”。

早期のうちはほとんど自覚症状がありません。

だからこそ、定期的ながん検診で、早期発見・早期治療が大切です。

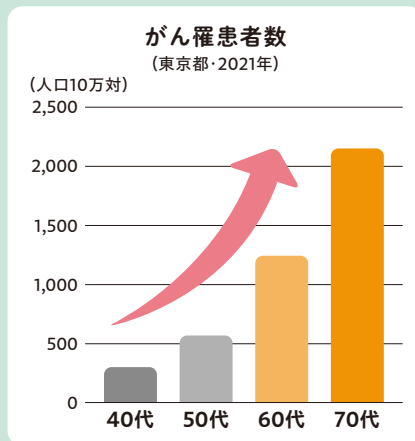
退職後も、がん検診を継続しましょう！



## 年齢とともに増える「がん」

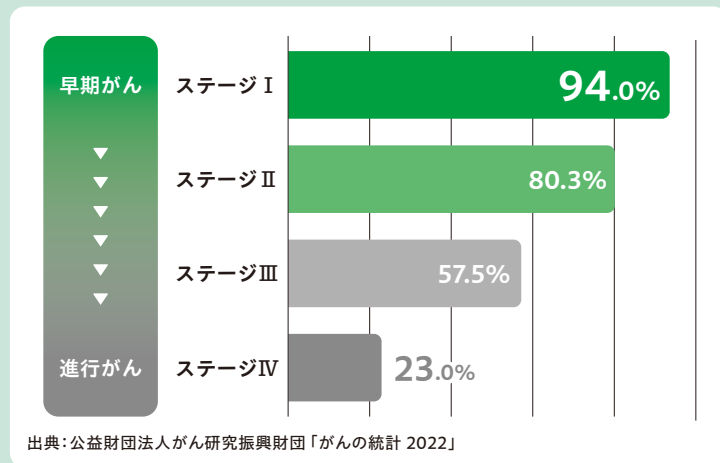
健康な人の体でも毎日、多くのがん細胞が発生していますが、免疫が働いてがん細胞を排除しています。しかし、年を取っていくと、**免疫の働きが低下し、がん細胞を排除することが難しくなります。**そのため、高齢になるとがんになりやすくなるのです。

※以上は、文部科学省「がん教育推進のための教材」を参考に作成いたしました



※上皮内がんを除く  
出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」  
(全国がん登録)

## がんと診断されてから5年後の生存率



誰でもなる可能性があり、命を落とす人も多いがんですが、**早期発見・早期治療による5年後の生存率は90%以上**であることがわかっています。

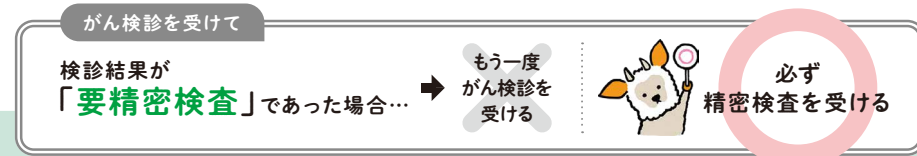
早期発見・早期治療による生存率は**90%以上**

定期的に検診を受診することが大切です！

## 国が推奨する5つのがん検診

胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	乳がん検診	子宮頸がん検診
2年に1回 ※1	1年に1回	1年に1回	2年に1回	2年に1回 ※2

※1 胃部エックス線検査については、当分の間、1年に1回受診しても差し支えないとしています。 ※2 細胞診の場合。



受けるまえに知っておきたい

## がん検診のメリットとデメリット

上の5つのがん検診は、推奨される条件を守って受診することで、メリットがデメリットを上回ることが科学的に証明されています。

メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんにより死亡するリスクを減らすことができる</li> <li>早期発見で体に負担の少ない治療で済ませることができる</li> </ul>	
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>がんを必ず見つけられるわけではない</li> <li>不必要な検査や治療を招く可能性がある</li> </ul> <p>がんではないのに「がんの疑いがある」と判定されたり(偽陽性)、生命に影響しないがんを見つけてしまう(過剰診断)ことがあります。</p>	

これからのがん検診

## こんなことにも要注意！

がん検診をきっかけに体に負担のある検査や治療が行われることもあります。特にご高齢の方の場合は、ご自分の想定よりも体力の予備能が乏しいので、かかりつけの医師がある方はよくご相談のうえ、受診すべきかどうかを決めましょう。



特に注意が必要な  
検診についてはこちら